



第54回日本肝癌研究会

近藤 礼一郎

久留米大学医学部病理学講座助教・医局長

中島 収

久留米大学病院臨床検査部教授

はじめに

第54回日本肝癌研究会は、2018年6月28日、29日の両日に久留米シティプラザにおいて開催された(写真1)。今回は「肝癌の新たな臨床病理を考える」というテーマで、特別講演1題、教育講演2題、教育セミナーのほか、2つのシンポジウム、5つのパネルディスカッション、8つのワークショップが主題として行われ、症例検討会、一般演題も例年通り開催された(写真2, 写真3)。2日間で1,000名を超える参加者があり、どの会場も熱気あふれる討議が繰り広げられた。

主な報告

研究会初日である28日には、肝癌の病理に関する特別講演およびワークショップ、分子標的治療についてのシ

ンポジウム、その他に肝癌と微小環境、nonBnonC型肝炎、進行肝癌に対する治療をテーマに主題が組まれた。また、特別企画として若手医師やメディカルスタッフに向けた教育セミナーも開催された。

特別講演は司会を久留米大学の神代正道名誉教授が務められ、New York大学のNeil David Theise先生が混合型肝癌の病理に関して講演された。講演では現状のWHO分類とその問題点、問題点に対する最新の知見が示された。混合型肝癌の分類は、まだ十分なコンセンサスが得られていない領域であり、今後の展開が注目される。

特別企画の教育セミナーでは、「肝癌の腹部超音波診断」を兵庫医科大学内科学肝胆膵科/超音波センターの飯島尋子教授が講演され、久留米大学消化器内科の黒松亮子教授は「肝細胞癌との鑑別が問題となる良性結節性病変の腹部超音波診断」を講演された。その後、隈部医院/久留米大学放射線医学講座の隈部 力先生と久留米

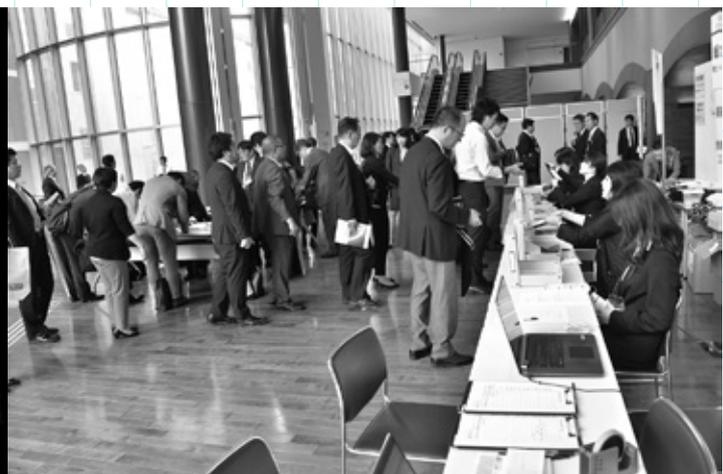


写真1 久留米シティプラザ受付の様子